



2023年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2022年11月14日

上場会社名 株式会社グラフィコ 上場取引所 東
 コード番号 4930 URL <https://www.graphico.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 長谷川 純代
 問合せ先責任者(役職名) 取締役CFO兼管理本部長(氏名) 榎並 正太郎 (TEL) 03-5759-5077
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年6月期第1四半期の業績(2022年7月1日~2022年9月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年6月期第1四半期	1,536	37.5	152	26.8	134	10.1	93	10.4
2022年6月期第1四半期	1,117	—	120	—	122	—	84	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年6月期第1四半期	100.16	97.27
2022年6月期第1四半期	91.36	86.72

(注) 1. 2021年6月期第1四半期については四半期財務諸表を作成していないため、2022年6月期第1四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

2. 2022年6月期第1四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、当社は2021年9月24日に東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に上場したため、新規上場日から当四半期会計期間末までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年6月期第1四半期	3,675	2,187	59.5
2022年6月期	2,694	2,093	77.7

(参考) 自己資本 2023年6月期第1四半期 2,187百万円 2022年6月期 2,093百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年6月期	—	—	—	—	—
2023年6月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年6月期の業績予想(2022年7月1日~2023年6月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	2,398	8.4	150	△41.3	138	△46.5	93	△47.8	100.38
通期	4,300	4.6	165	△27.0	146	△31.1	100	△31.3	107.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年6月期1Q	933,280株	2022年6月期	932,780株
------------	----------	----------	----------

② 期末自己株式数

2023年6月期1Q	74株	2022年6月期	43株
------------	-----	----------	-----

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年6月期1Q	932,904株	2022年6月期1Q	926,385株
------------	----------	------------	----------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、景気に緩やかな持ち直しの動きがあり、ウィズコロナの新たな段階への移行も進められている中、地政学的リスクの上昇により端を発した原材料価格の高騰、為替相場の円安進行等も続いており、先行きは依然として不透明な状況にあります。

当社が属する健康食品、化粧品、日用雑貨及び医薬品業界におきましては、国内の個人消費に緩やかな持ち直しの動きがみられる一方で、各種消費財の値上げが行われており、今後の消費動向も含めた影響の予測が難しい状況にあります。

このような状況の下、当社は「モノ創りで、笑顔を繋ぐ。」を経営ビジョンとして、変容する働き方やライフスタイルの中で頑張る方々を応援し、笑顔で幸せな生活を楽しんでいただくための商品を創出するメーカーとして、常にお客様の立場に立って、興味・共感を得られる実感値の高いモノ創りに挑戦し続けてまいります。また、ウィズコロナにおける新しい生活様式に関連した消費行動の変容を中心に、当社の強みである企画・開発力、プロモーション力を活かし、多様化する消費者ニーズを捉えた高付加価値で競争力の高い商品の開発に取り組んでおり、さらにはインバウンド需要の回復に備えた取り組みを進めております。

当第1四半期累計期間においてはハウスホールドカテゴリーの当社主要ブランドである「オキシクリーン」において2022年9月に一部商品の値上げを実施したものの、リピート需要を中心に好調に推移し、業績全体を牽引したこともあり、前年同期を大きく上回る売上高を計上しております。一方で、原材料価格の高騰や円安進行が継続していることもあり、今後の業績におきましては慎重に対応していく必要があると考えております。

以上の結果、当第1四半期累計期間の売上高は1,536,892千円（前年同期比37.5%増）、営業利益は152,473千円（前年同期比26.8%増）、経常利益は134,748千円（前年同期比10.1%増）、四半期純利益は93,443千円（前年同期比10.4%増）となりました。

当社は健康食品、化粧品、日用雑貨、医薬品の企画及び販売を主たる事業とする単一セグメントであるため、セグメント情報に代えて商品カテゴリー毎の取り組み状況について記載しております。カテゴリーは、健康食品を中心とする「ヘルスケア」、化粧品を中心とする「ビューティケア」、日用雑貨の「ハウスホールド」、医療用医薬品と一般用医薬品の「医薬品」、「その他」で構成されております。

(ヘルスケア)

ヘルスケアに区分される商品におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴うインバウンド需要の停滞が継続しており、未だ回復が見込めない状況にあるため、ヘルスケア商品の売上高は53,484千円（前年同期比22.0%減）となりました。

(ビューティケア)

ビューティケアに区分される商品におきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により落ち込んでいた化粧品の需要が回復を見せており、堅調に推移いたしました。その結果、ビューティケア商品の売上高は93,358千円（前年同期比1.1%減）となりました。なお、2022年10月に新ブランド「ウィズフェム」をリリースし、不調を抱え我慢している女性をサポートするセルフケアアイテムを提案してまいります。

(ハウスホールド)

ハウスホールドに区分される商品におきましては、酸素系漂白剤ブランド「オキシクリーン」では、継続して店頭プロモーションやPRイベントの実施を積極的に行い、ブランド全体としてはリピート需要も好調に推移しており、ハウスホールド商品の売上高は1,358,322千円（前年同期比46.8%増）となりました。

(医薬品)

医薬品に区分される商品におきましては、「ビタミンC2000」シリーズや「酸化マグネシウム錠」の売上は堅調に推移しておりますが、昨年発売した鎮痛消炎医薬品「こりキュン」の販売が苦戦していることもあり、医薬品の売上高は19,367千円（前年同期比22.2%減）となりました。

(その他)

その他売上につきましては、主として植物石鹸等のPB（プライベートブランド）商品を販売しており、売上高は12,359千円（前年同期比180.2%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ981,482千円増加し、3,675,612千円となりました。これは主に、現金及び預金が1,305,445千円、原材料及び貯蔵品が102,262千円増加した一方で、商品及び製品が447,860千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期会計期間末の負債は、前事業年度末に比べ887,569千円増加し、1,488,162千円となりました。これは主に、前年度末に季節借入として行っていた短期借入金200,000千円を返済した一方で、長期的な運転資金を確保し安定的な経営戦略を採用するために、社債および長期借入金にてそれぞれ500,000千円ずつの資金調達を行ったことによる影響であります。

(純資産)

当第1四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ93,912千円増加し、2,187,449千円となりました。これは主に、四半期純利益の計上により利益剰余金が93,443千円増加したことによるものであります。

長期的な運転資金を有利子負債により調達したことにより負債が大幅に増加した結果、自己資本比率は59.5%（前事業年度末77.7%）となりました。自己資本比率が約18ポイント低下しておりますが、依然として60%近い自己資本比率を維持しており、財務体制に問題はないものと考えております。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年8月12日の「2022年6月期決算短信」で公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年6月30日)	当第1四半期会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	310,301	1,615,746
受取手形及び売掛金	583,359	592,862
商品及び製品	1,301,783	853,923
原材料及び貯蔵品	288,364	390,627
その他	92,592	83,300
貸倒引当金	△1,088	△1,102
流動資産合計	2,575,313	3,535,358
固定資産		
有形固定資産	16,977	16,773
無形固定資産	18,865	17,475
投資その他の資産	82,973	106,005
固定資産合計	118,816	140,254
資産合計	2,694,130	3,675,612
負債の部		
流動負債		
買掛金	151,951	107,209
未払法人税等	7,509	70,284
賞与引当金	—	12,060
短期借入金	200,000	—
1年内償還予定の社債	—	100,000
1年内返済予定の長期借入金	—	100,000
その他	235,992	293,455
流動負債合計	595,453	683,009
固定負債		
社債	—	400,000
長期借入金	—	400,000
資産除去債務	5,139	5,153
その他	—	△0
固定負債合計	5,139	805,153
負債合計	600,593	1,488,162
純資産の部		
株主資本		
資本金	245,661	245,825
資本剰余金	235,661	235,825
利益剰余金	1,599,059	1,692,502
自己株式	△229	△293
株主資本合計	2,080,152	2,173,860
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	13,385	13,588
評価・換算差額等合計	13,385	13,588
純資産合計	2,093,537	2,187,449
負債純資産合計	2,694,130	3,675,612

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)
売上高	1,117,824	1,536,892
売上原価	586,054	928,993
売上総利益	531,769	607,899
販売費及び一般管理費	411,505	455,425
営業利益	120,264	152,473
営業外収益		
受取利息	3	2
為替差益	1,699	—
その他	446	328
営業外収益合計	2,148	330
営業外費用		
支払利息	—	1,174
社債利息	—	137
社債発行費	—	7,039
為替差損	—	9,700
その他	5	2
営業外費用合計	5	18,055
経常利益	122,407	134,748
税引前四半期純利益	122,407	134,748
法人税、住民税及び事業税	45,226	65,003
法人税等調整額	△7,453	△23,699
法人税等合計	37,772	41,304
四半期純利益	84,634	93,443

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。